

# かさまのれきし

第63回

## 橋爪地内「花坂」のあゆみ

笠間市の入浴施設のある花坂の地は、橋爪地内の南部に位置し、酒沼川左岸の舌状台地上にあります。縄文時代より人々が生活するのに適した土地で、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）になっています。橋爪は明治半ばまで橋爪村でしたが、同二十二年（一八八九）宍戸町の誕生により大字橋爪となり、花坂はその小字となりました。

花坂には、かつて三乗院という寺院がありました。今は石仏の隣に、「無刀齋先生之碑」が残っています。無刀齋は江戸後期、地域の人々の教育にあたりました。晩年は江戸に移り住んで、七十七歳で死去しました。門弟（教え子）たちがその徳行を称え、石碑の側面や裏面に漢文で師の業績を綴り建立しました。

明治の中頃、花坂が学校敷地になりました。同二十七年（一八九四）に西茨城第二高等小学校の校舎が建設され、校舎前に運動場も造られました。のち宍戸高等小学校となり、同四十一年（一九〇八）に宍戸尋常高等小学校の高等科の学校となりました。同校は大正九年（一九二〇）、現在の宍戸小学校敷地に尋常科と高等科を合わせた校舎が落成し移転しました。花坂で高等科を過ごした卒業生は、千人を超えました。学校移転後、校舎は取り払われて公園となり、花見の名所になりました。

太平洋戦争後に作られた宍戸小学校の校歌には、花坂の地名が採り入れられました。同校は、詩人・児童文学者で、童謡「どこかで春が」の作詞をした百田宗治に校歌の作詞を依頼しました。来町した百田は学区内を巡った後、校歌の一番に「春は花坂あげびばり」と作詞しました。この校歌は、現在も声高らかに歌われています。

昭和五十年（一九七五）、福祉の町づくりを目指していた友部町は、花坂公園に保養施設を開設します。正式名称は建設地の地名をとり、友部町老人憩の家「はなさか」としました。その後、平成十七年（二〇〇五）に全面的に改築し、「いこいの家はなさか」としてオープン。人工温泉をはじめとした様々なタイプの風呂や、大広間・個室が設けられ、子どもから高齢者まで幅広い年代の人々が楽しめる施設になりました。今は「笠間市いこいの家はなさか」の名称で、健康増進のための入浴施設であるとともに、災害時の指定避難所になっています。

このようにして、花坂の地は江戸後期から現在に至るまで、教育や福祉の拠点の一つとして歩んできました。今、この地へ足を運ぶと眺望が開け、仏頂山まで見渡すことができ、さらに愛宕山から難台山へ続く山並みが遠望できます。

（市史研究員 幾浦忠男）



入浴施設のある花坂の台地



無刀齋先生之碑